

年会参加登録時の男女共同参画アンケートによる会員動向調査

2026年3月4日

男女共同参画委員長 濱田 隆宏

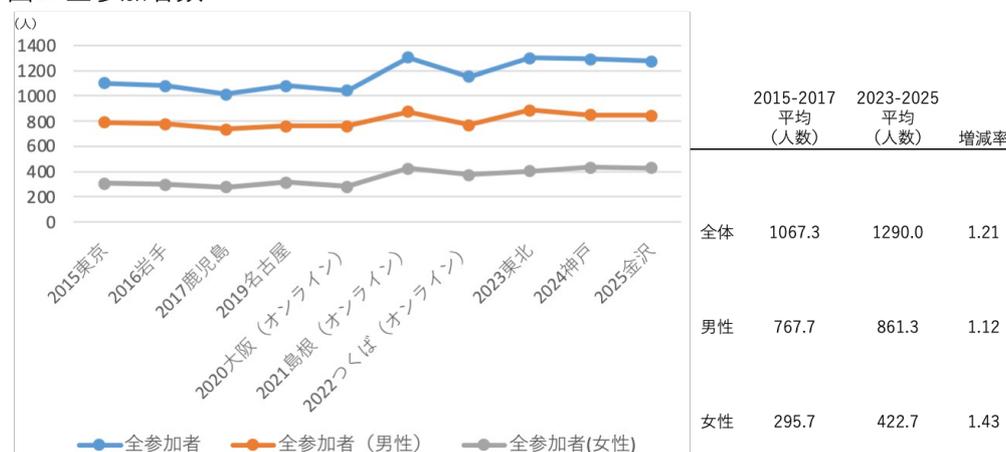
男女共同参画委員 山本 浩太郎

(2024-2025年度)

日本植物生理学会・男女共同参画委員会では、2015年度から年会に事前参加登録される参加者の皆様に性別、所属機関分類、年齢、職階などの属性を答えて頂く男女共同参画アンケートを実施しております。2025年度に10年間分のデータ（2018年度はデータなし）が集まったため、その結果を取りまとめ、公開させていただきます。

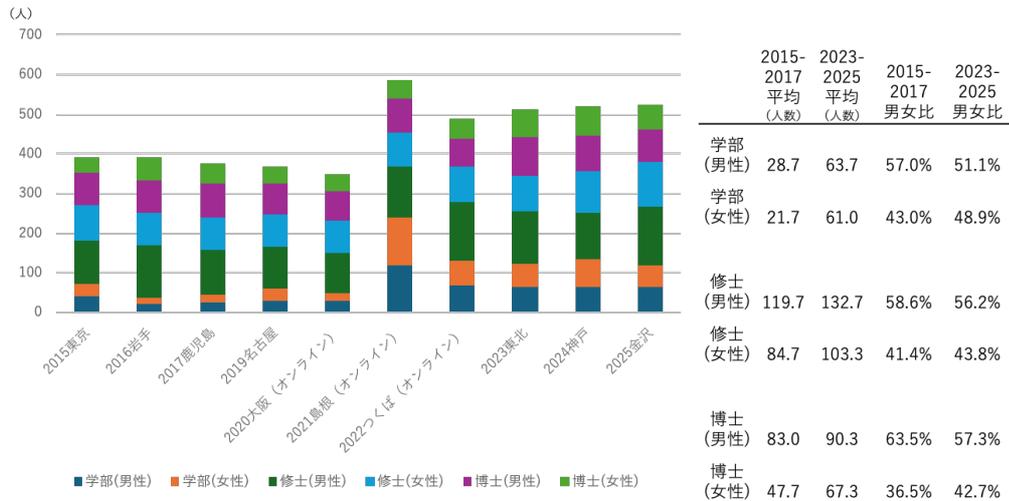
本データは様々な活用方法が考えられますが、ここでは管理職の女性比率目標値の4割（国連）や3割（内閣府2030年目標）に対して、現時点の日本植物生理学会に達成可能な下地があるか、どれくらい足りていないかを調べることにしました。また、コロナ禍におけるオンライン開催時の参加者数は統計上使いにくいいため、その前後である2015-2017年度平均値と2023-2025年度平均値を比較しています。

図1. 全参加者数



まず、図1に全体の傾向を示します。参加者総数は増加しており、2015-2017年度平均値と比べて、2023-2025年度平均値は男性が94名、女性が127名増加しました。また男女比では男:女72:28だったのが、67:33と女性比率が上昇しています。

図2. 学生の推移



次に図2に学生の傾向を示します。学部生は男性が2.2倍、女性が2.8倍と大幅に増えており、その男女比は2015-2017年度が57:43だったのが、2023-2025年度は51:49となり、ほぼ偏りがなくなりました。修士学生は男性が1.1倍、女性が1.2倍の増加で、男女比は2015-2017年度が59:41だったのが、2023-2025年度は56:44となりました。博士学生では男性が1.1倍、女性が1.4倍の増加で、男女比は2015-2017年度が64:36だったのが、2023-2025年度は57:43となり、博士課程の女性参加者が顕著に増えていることが明らかとなりました。

図3. ポスドク・教員の推移

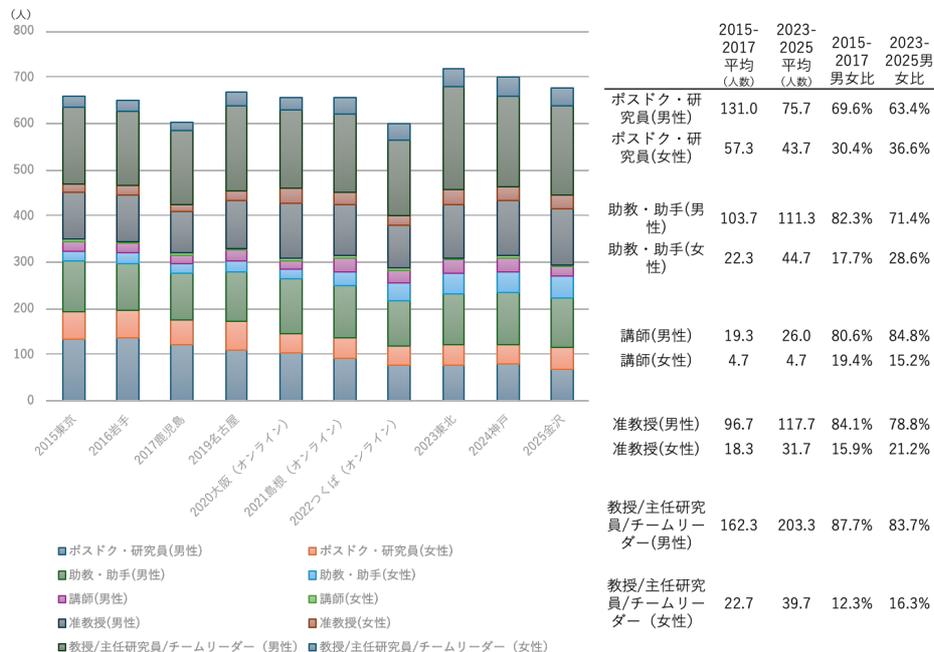


図3に博士取得以降の傾向を示します。ポストドクでは参加者数そのものが減少し、男性が0.58倍、女性が0.76倍でした。また男女比は2015-2017年度が70:30だったのが、2023-2025年度は63:37でした。一方、助教では男性が1.1倍、女性が2倍に増加し、女性の顕著な増加により男女比は2015-2017年度が82:18、2023-2025年度は71:29となりました。准教授や教授、主任研究員などでは女性の増加率が少し高くなりましたが、男女比は2015-

2017年度の准教授で84:16、2023-2025年度は79:21であり、教授/主任研究員で2015-2017年度が88:12、2023-2025年度は84:16となりました。

図4. 年齢別ポストク・助教の推移

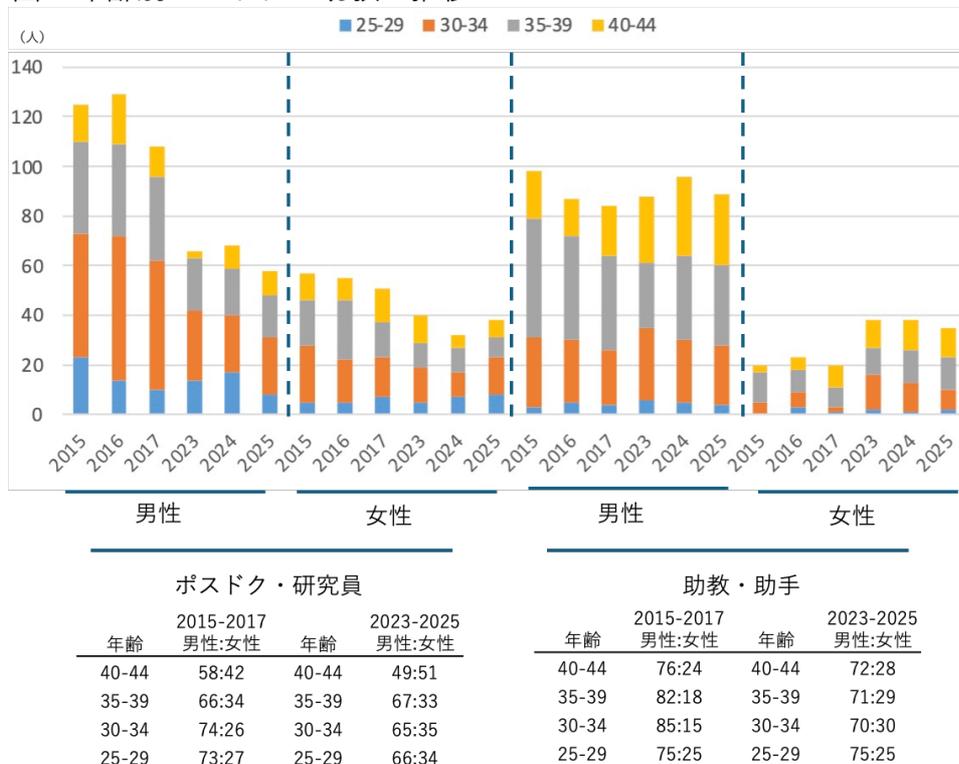


図4にポストクと助教の年齢別データを示します。2015-2017年度平均値と2023-2025年度平均値を比較すると25-29歳、30-34歳、35-39歳、40-44歳の年齢区分において、ポストクでは全ての年齢区分で女性比率が3割を上回りました。助教における女性比率は30-34歳で30%、35-39歳で29%、40-44歳で28%であり、年齢区分による差は少なかったです。

以上の解析により、博士課程学生、ポストク、助教などでは女性比率が上昇しており、このまま定着すれば将来的に(20年後?)には教授/主任研究員のカテゴリーも3割近くになる可能性があることがわかりました。ただし管理職の女性比率目標値の4割(国連)や3割(内閣府2030年目標)は、他学会よりも女性比率が高いと言われる本学会においても、現状では困難であります。また、博士課程、ポストク、助教の時期には多くのライフイベントと重なることが予想され、将来的な女性比率3割を達成するためには、博士課程からポストク・助教へのキャリアパス支援やライフイベント支援が必要であると考えられます。